

「日本における諸科学の編成と基礎概念の検討—文理統合の有効性をさぐる」総括シンポジウム開催趣旨 代表代理 鈴木貞美(国際日本文化研究センター名誉教授)

総研大学融合プロジェクト「日本における諸科学の編成と基礎概念の検討—文理統合の有効性をさぐる」は、日本における人文社会諸科学の展開と科学技術との関連を総合的に検討することを通じて、文理統合研究の有効性を具体的に示し、また、その有効な方法を開発することを目的とし、今日に至る日本の学術システムとその基礎概念の形成過程について、輸入先の西欧文化との価値体系の差異、それを受けとる際に働いた漢字文化圏における伝統、受け入れ時期や再編の歴史的条件などを勘案し、新概念の創始、流布、定着、再編を総合して考察、東アジア諸国に輸出された学術編制と日本の近現代の独自の知的システムの役割の解明を行うことを基礎にすえて平成 23 年度に発足し、「エネルギー」「生命」「情報」「科学行政」について4班に分けて活動を開始し、今年度は3年計画の3年目にあたる。

「エネルギー」班は2013年10月半ばに、「情報」班は同12月に報告書を完成予定しているが、「生命」班および「科学行政」班は進展がはかばかしくなく、この2班の活動をふくめて国際的、総合的な視野に立つ「知のシステム」再編制とはどのようにあるべきかについて、新たな方法を提案し、将来を展望した学術再編に向けて、具体的な提言を行いうるかどうか、各班で実質的に活動された方々により本年度の最終報告書づくりのための総括シンポジウムを開催する。なお、要綱は別紙(チラシ)を参照されたい。